

あれから 60 年

私たちが、まだあどけなさが残る顔で、真新しいセーラー服を着て出会った頃から、60 年の年月が過ぎ去りました。「あれから 60 年」という、似たような、どこかで聞いたようなフレーズを思い出しますが、昨日、クラス会があり、最初の出会いから 60 年を経て、年齢相応のいでたちで、懐かしい面々が集まりました。



学校の徽章

雪国・弘前の学校を卒業して、進学、就職、結婚など、それぞれの事情で郷里を離れ、東京圏で生活している同級生がかなりいます。年に一度のクラス会に集まってくるのはそのうちごくわずかです。顔ぶれも同じようになって来ましたが、七夕の織姫のように、年一度の再会を楽しみにしているというわけです。

徽章の形は見事にそろった柔らかい三つの頂を持つ、岩木山があり、その裾野にアルファベットで学校名が記されています。これはギリシャ語 $\alpha\rho\alpha\gamma\alpha\pi\eta$ (アガペー) の意味である聖なる神の愛、「聖愛」を示しています。校名もバラ色の曲線でまとめられています。来年、創立 130 年を迎える、伝統あるキリスト教主義学校が母校なのです。

私たちは、北国の静かな城下町で、おとなしく、穏やかに学生時代をすごしましたが、他校の方からは、華やかで自由なイメージで見られたようです。猛烈に勉学に励むタイプではなく、人と競争して勝ちたいという思いもありません。日々の生活を楽しく、豊かに味わうことを喜びとしてきました。ですから、母校で先生方から大切な人として愛され、また、自由に過ごした日々を感謝し、懐かしんでいると言うのが、卒業生としての気持ちです。そして、ミッションスクールで学んだという事は、決定的な人格への影響があるという事を実感させられます。それは神へ祈る心、人を愛する心を大切なこととして刻まれたという事でしょう。

クラス会を開くに当たり、その時々の幹事が場所を決めてきましたが、今回私たちが一番集まりやすい場所は銀座ということに決定しました。若い頃から、「有楽町で逢いましょう」という歌が耳に残っていて、駅から近いし、ウィンドー・ショッピングも楽しめます。けれども最大のポイントは「銀座教会のそば」という点でした。教会が私たちにとって、大事な目印となっています。

今年は同級生の一人が亡くなられたので、彼女を追悼することからスタートしました。母校の英語教師を務め、活発で多才な可愛らしい女性でした。彼女は迫ってくる死を受けとめ、辞世の言葉を残しました。「一生を思い返し、『私の恵みはあなたに十分である』(IIコリント12:9)という神様の言葉が聞こえてくる。感謝の思いで一杯である。天国の門でお出迎えします。」という死の 18 日前に書かれた文章を頂いていたので、読みました。私は彼女と一緒に岩木山に登ったこともありました。

その後、ランチをいただき、デザートのところから、全員近況報告をします。あれから 60 年というだけあって、ほぼ全員、身体的にガタがきていることが判明しました。今を精一杯生きることを誓いました。レストランの隣が銀座教会でしたので、礼拝堂で祈りたいと全員願って、教会へ行きました。お許しいただいて、母校を思い、友人、先生たちを思い、感謝のお祈りを捧げました。献金したいという友人の声で、それもすることが出来ました。教会の階段でタカラヅカ風に並び、記念撮影。何気なく見上げるとカラオケ店の看板がありました。部屋を借りることが出来るから、ということでゾロゾロ出かけました。初体験でした。ペギー葉山の「学生時代」の歌は私たち全員の昔懐かしい世界です。 ♪ツタの絡まるチャペルで祈りを捧げた日♪

